

## 卒業生の皆さんへ

学校教育学部長 水岡繁登

学校教育学部卒業、学校教育研究科および特殊教育特別専攻科修了の皆さん、卒業ならびに修了おめでとうございます。心からおよろこび申し上げます。

今日受け取られた卒業証書は、およそ20年という皆さんの長年にわたる精進の結晶であることはいまでもないことですが、皆さんを今日の日まで慈しみ育ててくださった方々のたいへんな苦勞の象徴であることも忘れてはならないと思います。また、この卒業証書を見て一番喜んでくださるのもその方々であろうと思います。今ここに、その方々に対して感謝の念を捧げて、社会生活への第一歩を踏みだしていただきたいと思います。

学校教育学部を卒業または修了された皆さんのほとんどは、新進気鋭の若き教員として社会生活の第一歩を踏みだされるものと思います。最近の教育界をみますと、児童、生徒の非行問題は目に余るものがありますが、教員の間にも言語道断の行為があり、昨年はまた特に目立ったように思います。このような教員はとみると、どうも児童、生徒や保護者などに信頼の薄い教員が問題をおこしている率が高いように思います。古い古い話で、しかも私事でいささか気がひけますが、私が小学校の時の担任の先生は理科が好きな先生でした。今でも思いだすことは、理科の授業の時、なぜその実験をされたかは思いだせないが、消火器の原理に関する実験をしていたことがあります。何種類かの薬品を混ぜてその容器にふたをしたところ、実験結果がよすぎたといおうか、吹き出した液が天井までとどいて天井板をよごしました。このよごれは校舎が作り替えられるまで、私が成人し

てもまだ天井に残っていました。その担任の先生は代わって次の担任の先生もまた理科の好きな先生でした。この先生は、運動場の隅に畑を作って、キュウリやカボチャを植え、どうしたらキュウリやカボチャの収穫がよくなるかということを教えてくださったことがあります。これらのことは、今考えてみてもそのころの教材とは結びつかないことと思われ、この2人の先生はなにか自分でそのような勉強を続けておられたのではないかと思います。この2人の先生は子供の心に残ると同時に信頼もあり、またこの級の卒業生は理系に興味をもつ者がほとんどでした。子供たちが先生を信頼するということは、その先生の言動から何かにじみ出るものを子供たちが感じとる時、子供なりに信頼感を持つようになると思います。中途半端な指導法や指導技術でその場その場の授業をし、教科書を教えることだけに精いっぱい先生では、子供たちは先生に信頼を持たないと思います。絶えず知的好奇心を持ち、視野を広げ、感性を磨き、自己を高めようとする姿こそ子供たちや保護者が信頼感を深めるもとであると思います。信頼する先生であれば、子供たちはその先生の話をちゃんと聞いてくれるものと思います。自分を磨くことをやめたときは、教員としての指導力も信頼も急速に失われていくものと思います。一般社会に出発していく皆さんも、これまで身につけられた幅広い学問を基礎に、さらにそれぞれの専門的学問を身につけられ、急速に変化発展するどのような社会にも対応できる力量を備えるよう日夜努力していただきたいものです。御多幸をお祈りします。